

St. Luke's International University Repository

ミシガン大学老年学夏期セミナーの企画・運営・参加報告:国際学会・セミナー参加報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 亀井, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/392

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



弱で、「国際」とはいえ、アメリカの看護職が中心でありその他の国からの参加は1名程度で、日本からの参加が5名もあることは特記すべきことであろう。ISONGの会員数も200名程度と少ない人数であることは、アメリカには遺伝カウンセラーと遺伝看護婦が2分化されており、その認定資格等の問題を抱えている事情があるように思われる。遺伝カウンセラーについては、現在日本においても遺伝医療に関わるさまざまな職種で検討を重ねており、アメリカの歩んできた行程と現在生じている問題は参考になった。

肝心の学会発表は、文部省科学研究費で進めている「遺伝看護の実践能力を育成する教育プログラムの開発と評価」の初年度として、日本における遺伝看護の実践能力について、インタビューを中心にまとめた内容をポスターセッションで発表した。小さな学会のため、ほとんどのメンバーは顔なじみでとても居心地のよい学会である。ここで広がった人脈が、日本遺伝看護研究会で主催したセミナーや日本看護科学学会交流集会の参加を成功に導いてくれた。私にとって ISONG は、人的な交流と知識の拡がりという学会参加の意義を最大限にもたらしてくれる学会のひとつである。

(母性看護・助産学：有森直子)

4. ミシガン大学老年学夏期セミナーの企画・運営・参加報告

ミシガン州アナーバーにあるミシガン大学メディカルセンターを中心に、今年度も8月に老年学夏期セミナーが開催された。今回のセミナーは10年目にあたる節目であり、同時に最終回のセミナーで、運営委員一同、特別の思いが込められたものであった。

このセミナーの目的は、チームアプローチを通して高齢者ケアの質の向上に焦点をあて、参加者はさまざまな専門職種の役割を理解し、学際的チームアプローチをとることができるようになることである。毎年国内の保健医療福祉に関する専門職から参加者を募り、20名を選考し過去8年間にわたり派遣してきた。

筆者は看護職として後期5年間の日本側運営委員を務め、看護の立場から毎年のプログラム作成に関与してきた。運営委員は他に、医師、臨床心理士、介護福祉士、福祉学者からなり、運営委員もチームによって支えられ、また専門性を発揮してきた。

一方、米国側の運営委員はソーシャルワーカーの Ruth Campbell 氏をプログラムコーディネーターとして、医師、ヘルスエデュケーター、看護職、政治学者、事務職、ボランティアからなり、日本側運営委員との連絡を取り合いながらプログラムを構築していった。

毎年プログラムは brush up され、完成度の高い2週間のプログラムに集約され、過去の参加者からの評価も高い。

過去8年の参加者は160名を数え、終了者は自発的にミシガンネットを組織し、国内における勉強会の開催、地元セミナーへの講師派遣、情報交換など活発に活動している。

今年度は総括セミナーであったため、例年とは趣向を異にし、1週間のプログラムで参加者は過去8年間の参加者に限定され、いわば気心が知れた同士の“同窓会”的なセミナーであった。

主なプログラムを紹介すると、「チームづくり」「痴呆について—世界的に著名な Peter Whitehouse 氏の講演と氏を交えてのグループディスカッション」「日本側参加者のチームアプローチ事例の紹介」「チャレンジプログラム」「地域への outreach：機関見学—Hannan House, Senior Independent Day Center, デトロイト PACE Program」などであった。

今年は過去の協力機関への感謝状授与や、Japan Day と称して関係者とそのご家族をピクニックに招待し、風船つり、焼きそば、盆踊りなど日本から持ち込んだ材料で縁日を開催して感謝の意を表す企画も盛り込んだ。

最終日には、ミシガン大学副学長臨席のもと、ミシガン大学ターナークリニック前の広場に銀杏の木を記念植樹し、木の成長を見に再訪することを互いに約束したのであった。

この5年間、筆者にとっては夏が訪れることが一番の楽しみであったが、ひとまずこの形のセミナーは終了することになった。新たな企画として、“train the trainer”つまり教育する人をトレーニングするという企画が持ち上がっている。

わが国では4月から介護保険制度が施行され、ケアプラン作成はチームで行うことがいよいよ本格化した。過去の参加者はケアマネジャーとして各地で活躍し、“ミシガン魂”をもって各専門職を尊重し、かつその専門性を発揮している。このような10年先を見越したプログラム作りには敬服する。

ミシガンモデルから学ぶ高齢者ケアはまだまだまだたくさんありそうである。

なお、本セミナーは勸長寿社会開発センター、勸ユニバーサル財団、田辺製薬(株)、厚生省の主催・企画・後援によることを付記する。

(老年看護学：亀井智子)